

大会細則

- 1 開会式に参加するチームは、前回大会優勝校、準優勝校、優良校、結城市内中学校、大会初日の第1球場第1試合と第2試合の出場チーム、第2球場・第3球場・第4球場のそれぞれ第2試合出場チームとする。
- 2 指名打者制度（DH制）を導入する。ただし、二刀流選手を採用しない。
- 3 出場チームは試合開始時刻の1時間前までに球場に到着し、大会各球場本部（以下「本部」という。）から打順表を受け取る。第1試合のチームは、試合開始予定時刻の30分前までに、監督と主将が打順表を本部へ提出し、審判員立会いのもとに攻守を決定し直ちにシートノックに入る。態勢が整っているときは、試合開始予定時刻前でも試合を開始する。選手が9名集まらず、遅れて到着する見込みのある時は、試合開始予定時刻を過ぎれば棄権とする。
- 4 第2試合以降のチームは、前試合の4回終了時に、打順表5部を本部に提出し審判員立会いのもとに攻守を決定する。なお、すべての試合の攻守決定時は監督も参加すること。
- 5 ベンチは組み合わせ番号の若いほうを一塁側とする。
- 6 ベンチには当該試合出場チームの校長、部長（団体においては代表者）、監督、コーチ1名（団体）、スコアラー、登録選手25名以内、給水補助員（2名）以外の者は入れない。ただし、外部指導者1名は中学校体育連盟から認められたもののみ許可する。また、給水補助員2名は、チーム・選手へのプレイに関する指導はできない。
- 7 シートノックは5分間以内とする。ベンチ前でのサイドノックを認める。ただし、大会運営上シートノックは行わずに試合を開始することもある。この場合は、攻守決定時に通知する。また、ノッカーは選手と同一ユニフォームでなければならない。なお、捕手は捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、ファウルカップを必ず着用すること。シートノック時にダートサークル内に留まる、あるいは出入りする補助員、外野ノックの補助員、サイドノック時にノッカーにボールを渡す選手や野手からの送球をノッカーの近くで捕球する選手は必ずヘルメットを着用すること。
- 8 打者・次打者・走者・ベースコーチは必ずヘルメットを着用すること。
- 9 用具、装備及びユニフォームは、（公財）全日本軟式野球連盟規定細則第12条で定めるものを使用、装備、装着すること。スパイクの色は自由とし、全員同色でなくてもよい。
- 10 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたときには、その程度を問わず臨時代走の処置を行う。
- 11 ベンチ内での電子機器（携帯電話、パソコン等）の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。また、電子スコア記録用の机・イス1組の

持ち込みを認める。ただし、球場に常備されていない場合に限る。指示用メガホンは、ベンチ内に限り1個の使用を認める。

- 1 2 球場内ではトスバッティングのみ認める。
- 1 3 試合進行を円滑に行うため、対戦するチームより1名ずつ補助員配置の協力をすること。
- 1 4 試合は7回戦とし、正式試合になる回数は5回終了時とする。健康維持を考慮し試合開始後1時間40分を経過した場合は、試合成立回の5回終了以前でも試合が成立したものとみなし、新しいイニングには入らない。後攻のチームが勝っていて攻撃中の場合、その時点で攻撃を打ち切るものとする。
延長戦は行わない。同点の場合は、新しいイニングに入らないでタイブレーク方式で行う。
「タイブレーク方式」とは、継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。ノーアウト一・二塁の状態にして勝敗が決するまで行う。
- 1 5 熱中症対策として、2回終了時、4回終了時、6回終了時、タイブレーク前、各イニングにおける守備時間が概ね20分になる場合にそれぞれ5分間の給水タイムを設ける。
- 1 6 コールドゲームは、準々決勝まで適用し、5回以降7点以上得点差があった場合に適用する。
- 1 7 暗黒、降雨等により試合が5回以前に中止になった場合、または、5回を過ぎ（正式試合）同点で試合が中止の場合は、特別継続試合とする。
- 1 8 投球数制限を適用する。
 - ・1試合かつ1日の投球数は100球以内。
 - ・特別継続試合で投球できる球数は、もとの試合で投じた球数を引き継ぎ、残りの球数だけとする。
 - ・ただし、1週間350球以内は適用しない。
- 1 9 守備側のタイムの回数制限
 - ・監督が1試合に投手のもとに行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレークは、1イニングに1回行くことができる。ただし、投手交代の場合は回数に含まない。
 - ・捕手または内野手が、1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレークは、1イニングに1回行くことができる。
 - ・野手（捕手を含む）が投手の所に行った場合、そこへ監督が行けば双方1回として数える。その逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督の回数には含まない。
 - ・投手交代の場合、投手と捕手が打合せ（サインの確認）のために準備投球の前あ

るいは後に少しだけ会話することは、捕手または内野手の回数には含まない。

- ・攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。

2 0 攻撃側のタイムの回数制限

- ・攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、タイブレークは、1イニングに1回とする。
- ・守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。

2 1 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取り打者に対面した後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合には20秒以内に投球動作を開始しなければならない。違反した場合、球審はただちにボールを宣告する。

2 2 打者はみだりにバッターボックスをはずしてはいけない。

2 3 打者がバッターボックス内で打撃姿勢をとろうとしなかった場合、球審はストライクを宣告する。この場合はボールデッドとなり、いずれの走者も進塁できない。

2 4 次打者は、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。

2 5 準備投球時において、控え選手等が準備投球を捕球する場合は、捕手に求められている用具をすべて着用しない限り立って捕球する。

2 6 2025年「公認野球規則」「競技者必携」を必ず持参すること。

2 7 その他については、2025年公認野球規則及びアマチュア野球内規並びに2025年（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携に準ずる。

2 8 連絡先並びに問い合わせ先

大会前

大会事務局

結城市教育委員会スポーツ振興課内

第76回北関東中学生野球大会事務局

TEL 0296-32-6340

大会期間中

鹿窪運動公園野球場 TEL 0296-33-7551